

第12回北埼玉吸入療法連携会勉強会に参加しました

いつのまにか秋も深まり、日没も早くなってきた11月6日、おなじみのさくらめいにて第12回北埼玉吸入療法連携会勉強会が開催されました。

今回の研修会では、いつもと趣向をすこし変えて吸入薬ではなく点鼻薬の指導について学ぶことが出来ました。

まず代表の高久医師からは「**内科医の視点からアレルギー性鼻炎の薬物療法**」について講演を行っていただきました。アレルギー専門医でもあり同時にアレルギー患者でもある高久医師からは抗アレルギー薬、点鼻ステロイド、免疫療法、抗体製剤といった薬だけでなく普段の生活上の注意まで、とても説得力のあるお話を聞くことができました。

何故この会でアレルギー性鼻炎？と不思議に思った方もいると思いますが、高久医師の話を知ると納得できます。実は喘息患者さんのアレルギー性鼻炎合併率は70%にもものぼり、**アレルギー性鼻炎**をもっていると、たとえ今喘息でなくても無治療であれば10~30倍も喘息のリスクをあげてしまうといった**喘息の危険因子**であります。

私たち薬剤師もアレルギー性鼻炎といえばまずは抗アレルギー薬というイメージが強いですが、実はガイドラインに載っている治療で最も効果の高いものはナゾネックス、アラミストといった点鼻ステロイド薬であり、副作用も少ないといったメリットがあります。ただ、効果発現まで数日~1週間もかかりますし、吸入薬のように良くなったから止めてしまう患者さんが多いというデメリットもあります。**薬剤師による服薬指導が大事な薬**だと改めて実感しました。

指導の重要性を学んだところで、ナゾネックスの服薬指導についてロールプレイを行いました。今回は特に点鼻ステロイド薬の指導経験が少ない薬剤師も多くいました。周りも

分からない人が多い。だからこそ恥ずかしがる人も少なく役をこなし、ロールプレイ後の振り返りでも活発に意見を述べ合う姿が各班で見られました。

そしてロールプレイを終えて、いつものように説明書を渡してお終いではナゾネックスの効果を最大限に引き出す使い方が出来ないのではないかと感じました。何故かという
と、実は私も花粉症の時期になるとナゾネックスを処方してもらっていました。自分では説明書をしっかり読んで使用していたつもりでしたが、持ち方が違う、点鼻した後上を向かず下を向いたまま吸って吐くを行っていた等のミスをしていました。説明書を読んでもこれなので、もし説明書も読まないような人ならもっと大きなピットホールがあってもおかしくありません。簡単に見えるからこそ、その分しっかりとした指導が必要だと実感しました。

北埼玉吸入療法連携会では、吸入薬だけではなく様々な視点から喘息、COPD 患者さんの指導に役立つような情報を提供しています。もし、これが聞きたいというような希望あればアンケートに記載してみてください。

最後に、今回の勉強会で使用した操作説明書は、アンケートでいただいた意見を反映した後、連携会の HP に掲載される予定です。点鼻ステロイド薬の指導の際には是非使ってみてください。

(文責 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 薬剤部 柳田絢子)